

2017年3月期 期末決算説明会 主な質疑応答及び補足説明

日 時：2017年4月28日（金）14:00 ～ 15:00

出席者：代表取締役 社長執行役員 横田 浩
取締役 常務執行役員 財務部門長 浜田 昭博

期末決算について

Q1：営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益について

A1：営業利益は、トクヤママレーシアの改善、徳山製造所のコストダウンに加え原燃料コスト減少の追い風により増加しました。

当期純利益は、トクヤママレーシアの譲渡決定に伴い、本来、支払う税金が80億円減少したことに加え、繰延税金資産を5年間分で178億円計上したため合計258億円税金費用が減少したことにより増加しました。

今年度の業績予想について

Q2：今年度の親会社株主に帰属する当期純利益が130億円と前年比75%も減少する理由は。

A2：経常利益は320億円と、前年度からそれほど変わりませんが、トクヤママレーシア譲渡に係わる損益の計上時期の違いにより、当期純利益が大きく変動します。

前年度はトクヤママレーシア譲渡を認識したことにより税務面での益を計上できたのに対し、今年度はトクヤママレーシアの譲渡完了により譲渡損を約100億円計上する予定です。

このように譲渡の認識と完了が違う年度に発生することにより親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動することになります。

Q3：原燃料コストへの石炭価格の影響はいかがですか。

A3：前年度と比較しますと50億円程度コストアップすると考えています。

Q4：新聞報道では、苛性ソーダや塩ビでかなりの大幅な値上げが認められたようですが、いかがでしょうか。

A4：我々が今年度の予算を策定したときよりも、お客様の反応が早いという感じです。

中期経営計画の進捗について

Q5：徳山製造所のコストダウンの効果はいかがですか。

A5：前年度のコストダウン効果は23億円でした。中期経営計画の目標40億円に対して少し前倒しで進んでいます。物流の見直しや在庫の削減によるコスト低減、エネルギーの有効配分等に取り組み、今年度は30億円を超えていきます。

Q6 : 3年くらい先を見たときに、どの程度の金額が達成できそうか、社長の考えを教えてください。

A6 : 40億円というのが社内でいつも議論になるのですが、そんなものではないだろう、と私は思っています。物流費に関して、投資効果があるものについて積極的に投資し、コスト削減に結びつけます。エネルギーでは、電気や蒸気をもっと効率良く使うことで、電気の外販量を増やせます。40億円というのは控えめの目標としてご認識願います。

Q7 : 優先株の償還と普通株の復配を発表しましたが、自己資本の増加は計画の前倒しで進んでいきますか。

A7 : はい、そうなると思います。さらに有利子負債につきましても、手元に1,200億円程度ありますので、金融機関に期限前返済をお願いして金利負担の減少に取り組みます。

設備投資について

Q8 : しばらく設備投資を我慢していたとの印象がありますが、今後はどのようにお考えでしょうか。

A8 : 設備投資につきましては、基本的には5年間で960億円という枠の中で考えております。

半導体向け多結晶シリコンについて

Q9 : シリコンウエハメーカーでは、ハイエンド品については作るのがかなり難しいので、大きな値上げをデバイスメーカーに要求しているようです。御社も多結晶シリコンの品質の良さを背景に単価を上げることはできませんか。

A9 : 簡単ではありませんが、そういう方向に向かっていくと思っております。

セメントについて

Q10 : セメントの輸出についてはいかがでしょうか。

A10 : エリアとしては東南アジア、オセアニアやニューカレドニアのような大洋の島嶼部の需要に応じていきたいと考えています。今年度は110万トンを予定しておりますが、将来は150万トンまで増やしたいと考えています。

Q11 : 廃棄物の受け入れについてはいかがでしょうか。

A11 : 分析用の試験室の充実などで、より単価の高い廃棄物を受け入れられるようにし、資源環境事業を伸ばしていきます。

以上